

## 東日本実業柔道団体対抗大会 京葉ガス柔道部 5年ぶり13度目の栄冠

「第48回東日本実業柔道団体対抗大会」(東日本実業柔道連盟主催)が、9月18日に講道館(文京区)で行われ、第1部で当社柔道部が優勝を果たしました。今回の優勝は、5年ぶり13度目となります。

同大会は、北海道から愛知県までの63の企業から96チーム360人が出場し、男子第1部から第3部および女子の部に分かれ3人1チームの団体戦で熱戦を繰り広げるもの。

当社柔道部は、第1部にA・Bの2チームが出場し、接戦を制したBチームが頂点に立ちました。また、Aチームも健闘し第3位の好成績を収めました。

Bチームは初戦(対日本通運)を終始優勢な試合運びで、3 - 0と全勝で下し駒を進めます。

続く準決勝(対ALSOK戦)は、先鋒の須藤選手は拮抗した試合運びで引き分け、中堅の花本選手はペースをつかめないまま優勢負けに屈しますが、大将戦で河原選手が果敢に攻め有効を奪い優勢勝ちし、試合は五分と五分に。勝負は須藤選手による代表戦の行方にかかりますが、これも4分間をフルに戦い決着がつかず、ゴールデンスコア(延長戦・2分間)にもつれ込みます。気合を入れなおして臨んだ開始16秒、場外間際で須藤選手の内股すかしによる一本が決まり強豪を突破、決勝に駒を進めます。

決勝戦(対日本中央競馬会)は、当社Aチームを準決勝で破った相手。先鋒の須藤選手は体格差で勝る相手選手に善戦するも指導を与えられ惜敗。中堅の花本選手は果敢に攻め相手選手に指導が与えられ優勢勝ち。勝負の行方がかかった大将戦、河原選手は60kg近い体重差のある相手選手を果敢に攻め続け、終始動きまわると、終了間際に相手選手に二度目の指導が与えられ河原選手の有効ポイントに。残りわずか数秒のタイミングで試合は終了し、そのまま優勢勝ちを収めて、2 - 1で念願の栄冠を勝ち取りました。



優勝した当社Bチーム  
(左から、花本選手、河原選手、須藤選手)